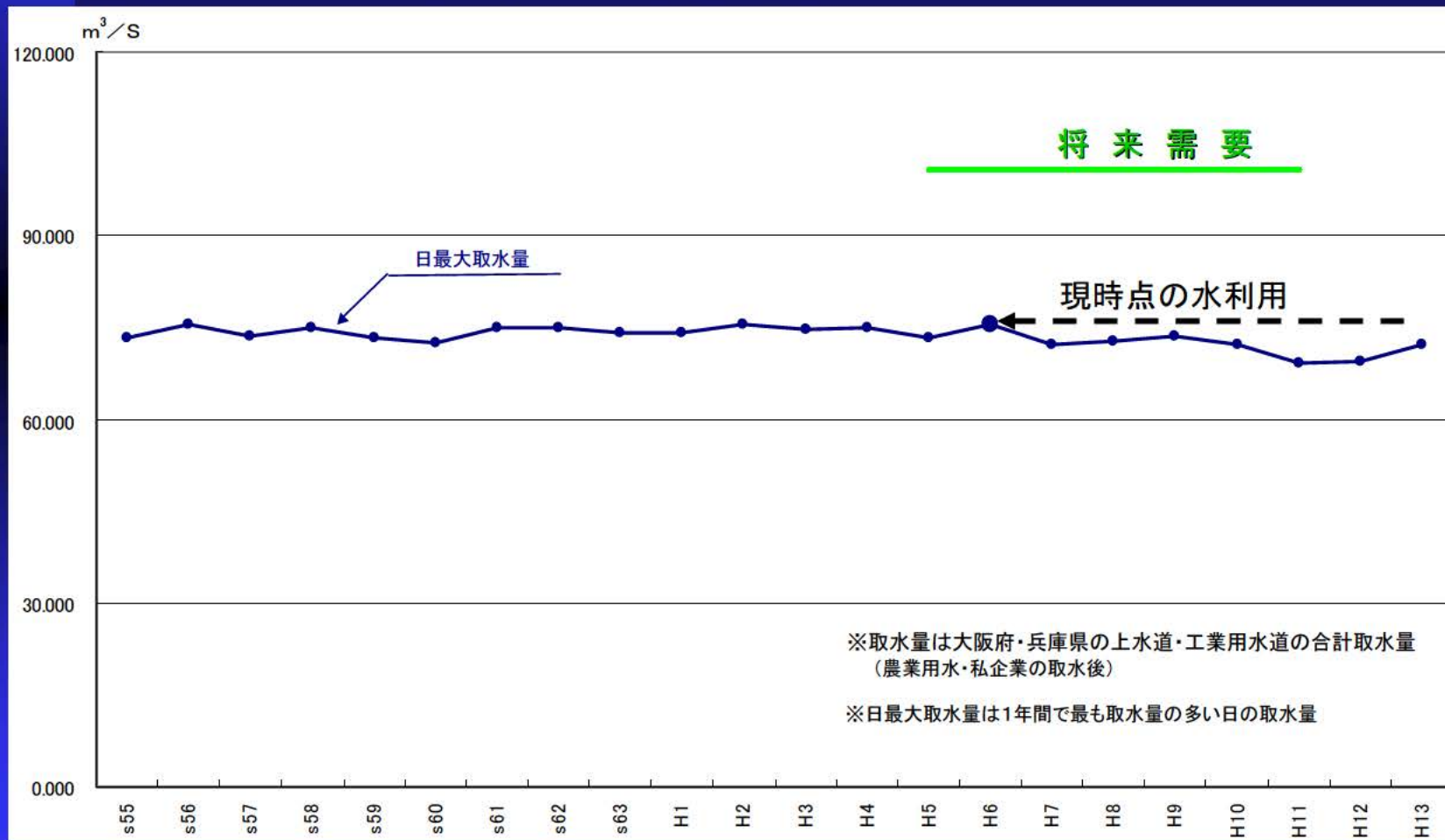
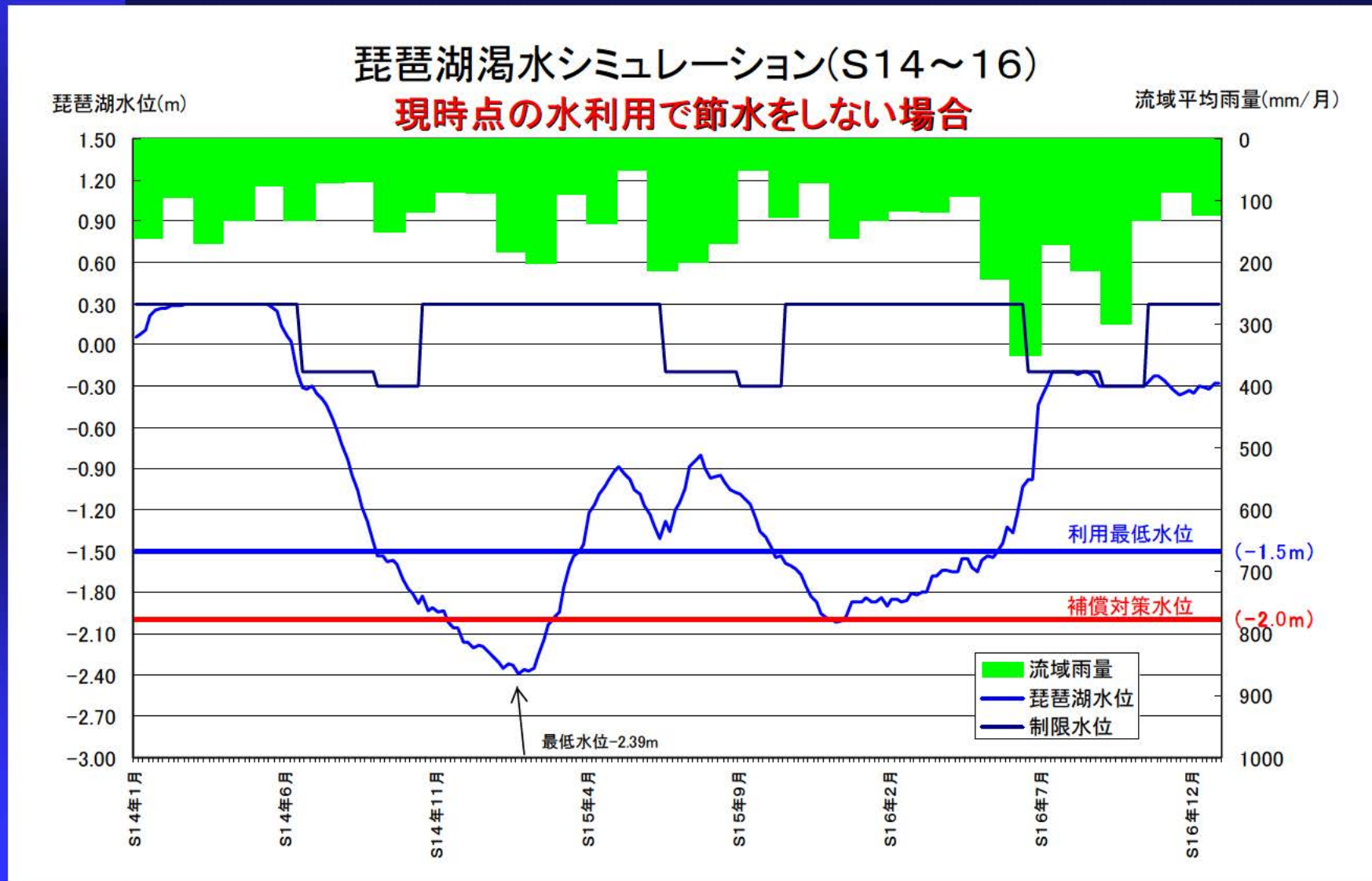


2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

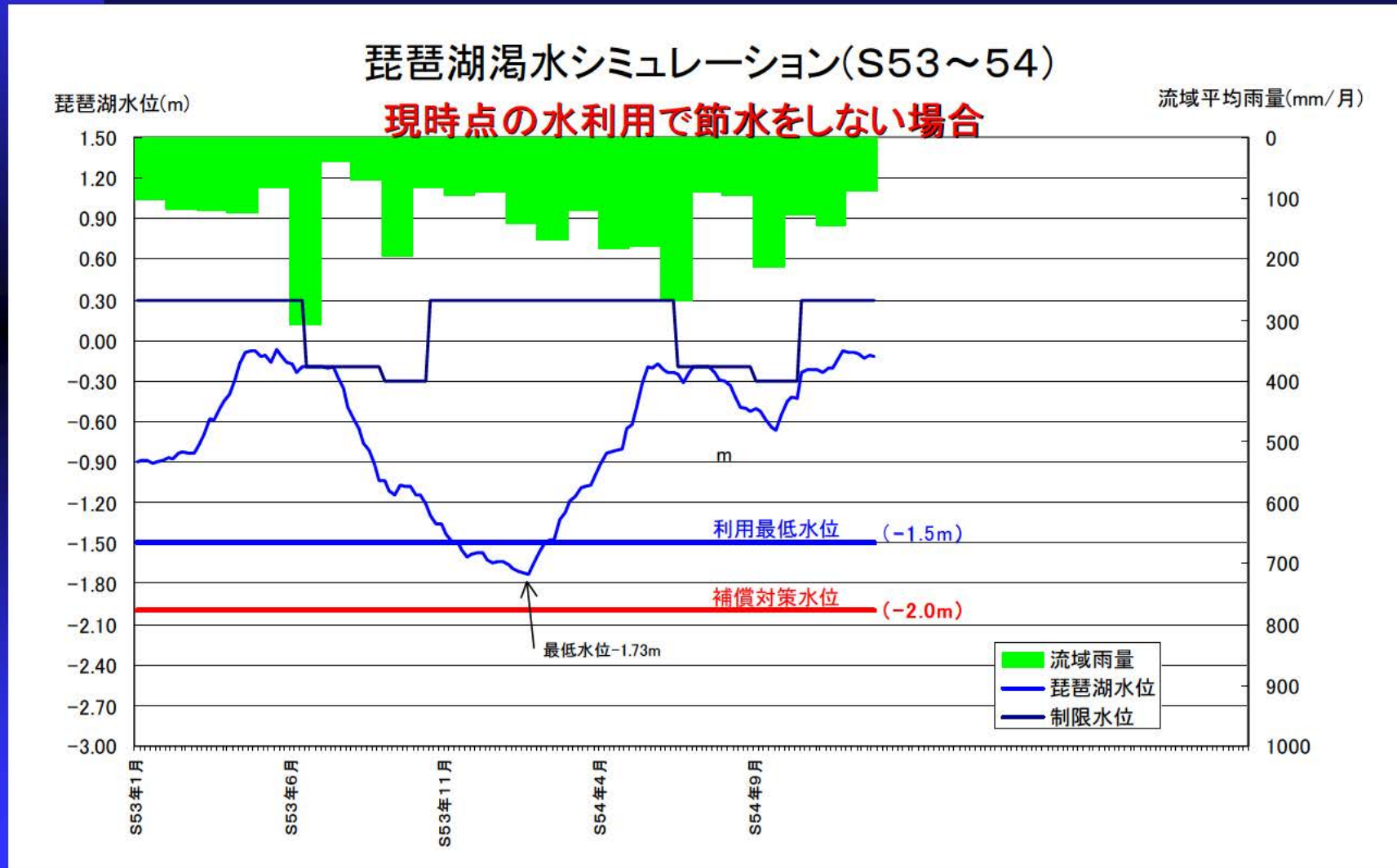
現行の淀川下流部の取水実績



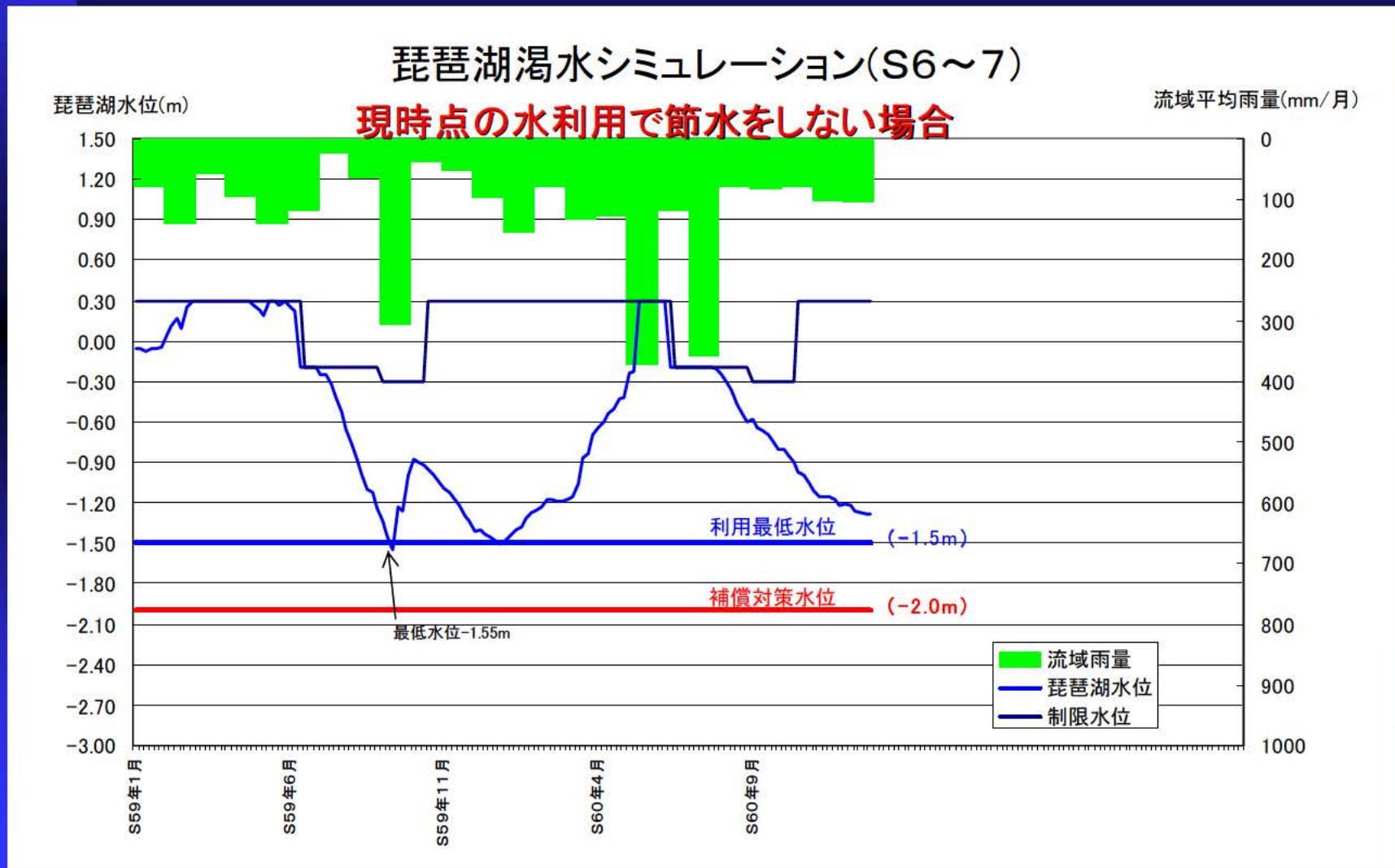
2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方



2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方



2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方



2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

■ 渇水時の水利用の調整をどのように想定するのか

○ 案1) ダム等の貯水容量が空になる前(例えば50%)に調整

案2) ダム等の貯水容量が空になってから調整(つまり緊急渇水対策の対応を考えるときのみ節水を考慮する)

案3) 施設整備は、計画上一切不要

2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

これまでの渇水時における調整

■ 時期

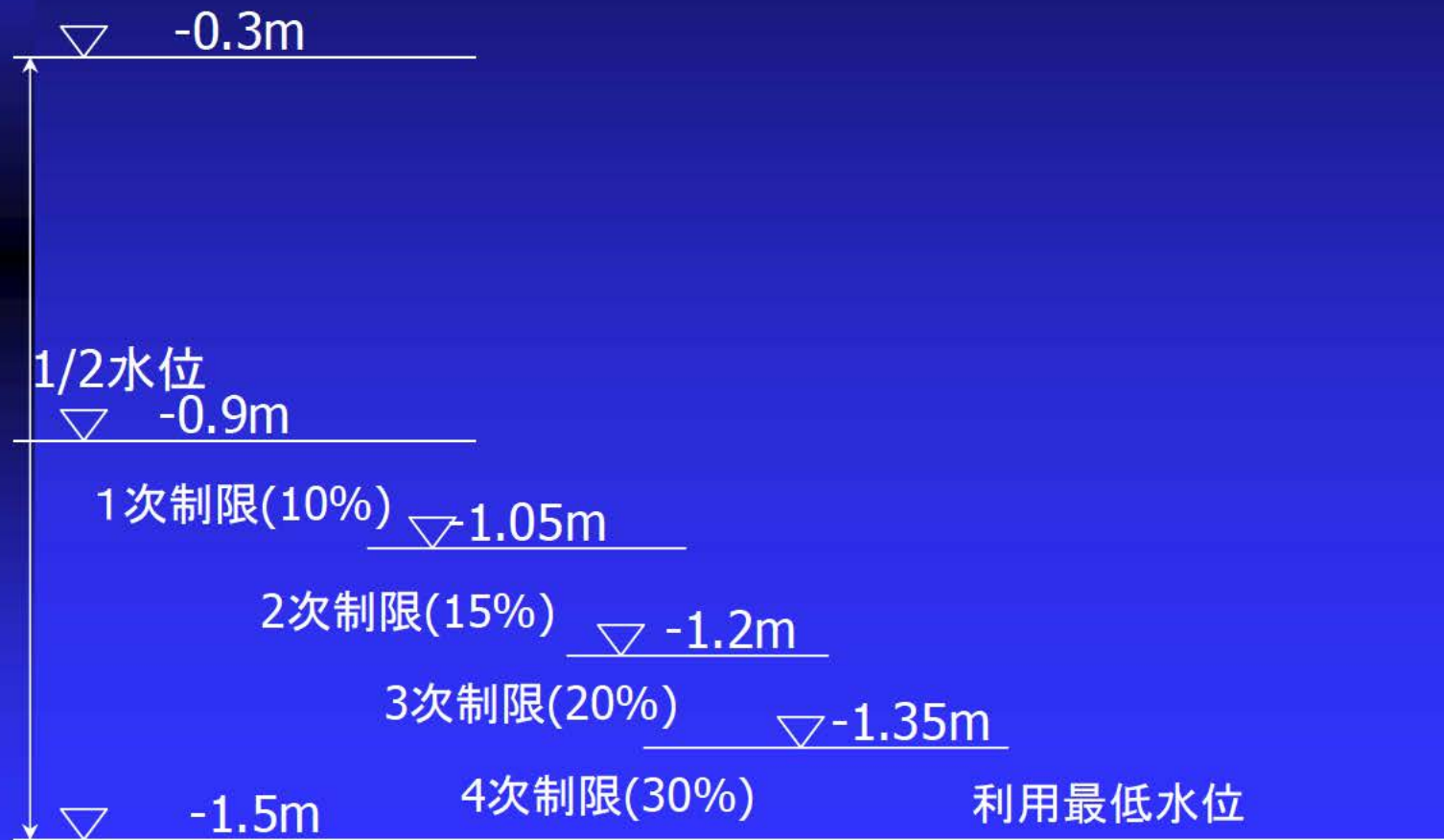
- ・ 琵琶湖水位が1/2に達した場合
- ・ ダム容量が半分になった場合

■ 調整

- ・ 河川利用者会議

2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

- これまでの渇水時の調整を基に想定(琵琶湖)



2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

- これまでの渇水時の調整を基に想定(ダム貯水池)

